

令和 3年度

事務事業評価表 ( 令和 2年度 の実績評価)

記入年月日  
令和 3 年 4 月 19 日

事務事業名		桜川市総合教育会議運営事業				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	020102001015
						単独/補助	単独		
政策体系		政策体系上の位置付け						所属課	010201
総合計画の施策名		0201 学校教育の充実							企画課
政策名		02 生きがいを育む学びのまちづくり						課長名	
施策名		01 学校教育の充実						グループ	企画G
手段名		02 ②教育体制の充実						担当者名	
		財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計		
	01	02	01	08	01	00	単年度繰返し ( 年度~)		
							企画事業		
法令根拠	地方教育行政の組織及び運営に関する法律								
[Do]	1. 事務事業の現状把握 (その1)								

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
市長と市教育委員会が円滑に意思疎通を図り、教育の課題及び目指す姿等を共有しながら、同じ方向性のもと、連携して効果的な教育行政を推進する。  構成：市長、教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育課と連携をとり、会議の日程調整</li> <li>・委員へ開催通知</li> </ul>

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移								
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)	04年度 (目標)	05年度 (目標)	
教育委員会において、協議が必要と思われる場合に、市長に協議すべき具体的事項を示し、会議を招集する。	総合教育会議開催回数	回	1.00	1.00	1.00	2.00	2.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)	04年度 (目標)	05年度 (目標)	
市内に在学している義務教育対象の生徒及び児童	付議案件数	件	1.00	2.00	2.00	2.00	2.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)	04年度 (目標)	05年度 (目標)	
市長と教育委員会が情報を共有し、効果的な教育行政を推進していく。	承認された案件数	件	1.00	2.00	2.00	2.00	2.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

(3) 投入量 (事業費) の推移		01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)	期間限定総投入量	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0
		その他	千円	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0
		事業費計 (A)	千円	0	0	0
	正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	2.00人	

事業費の内訳	02年度事業費 実績 (千円)				03年度事業費 予算 (千円)			
			合計	0			合計	0

事務事業名	桜川市総合教育会議運営事業	事務事業No.	20102001015	所属課	企画課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 平成27年度より、「地方教育権限の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に基づき、市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、教育の課題及び目指す姿を共有して、同じ方向性のもと、連携して効果的な教育行政を推進していく。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 児童・生徒数が減少しているため、小中学校の適正配置が大きな議題となっている。					

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 市と教育委員会が、課題等を共有しながら、効果的な教育行政を推進しているため、結びついている。
	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 市の教育問題解決のための会議なので、妥当である。
	③ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 現在、適正配置計画進行中であるため、向上の余地がある。
	④ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 市と教育委員会が課題等を共有して、効果的な教育行政を推進しているため、廃止した場合には大きな影響がある。
有効性	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) <input type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 首長も交えた事業であるため、余地がない。
	⑥ 事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 人件費のみであるため、削減の余地はない。
効率性	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 全ての生徒、児童が対象になっているため、公平である。
公平性	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒	少子高齢となっており、出生数が大幅に減少している。今後は更に児童数が減少するため、小中学校適正配置が急務となっている。 令和元年度の総合教育会議において、令和3年度より羽黒小学校と猿田小学校の統合について決定している。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 少子化による適正配置が急務となっているが、市長は真壁にひとつ、岩瀬にひとつの合計2つの中学校という枠を提言している。 桃山学園では、大和地区まで含めた児童生徒が入れるキャパがないため、大和地区の児童生徒の行方が課題となっている。		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th rowspan="2">向上 維持 低下</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		成果	向上 維持 低下	コスト			削減	維持	増加				○											
成果	向上 維持 低下	コスト																								
		削減	維持	増加																						
			○																							
(6) 事務事業優先度評価結果		成果優先度評価結果 <input checked="" type="radio"/>																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> A A: 継続 (現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B B: 継続 (改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>